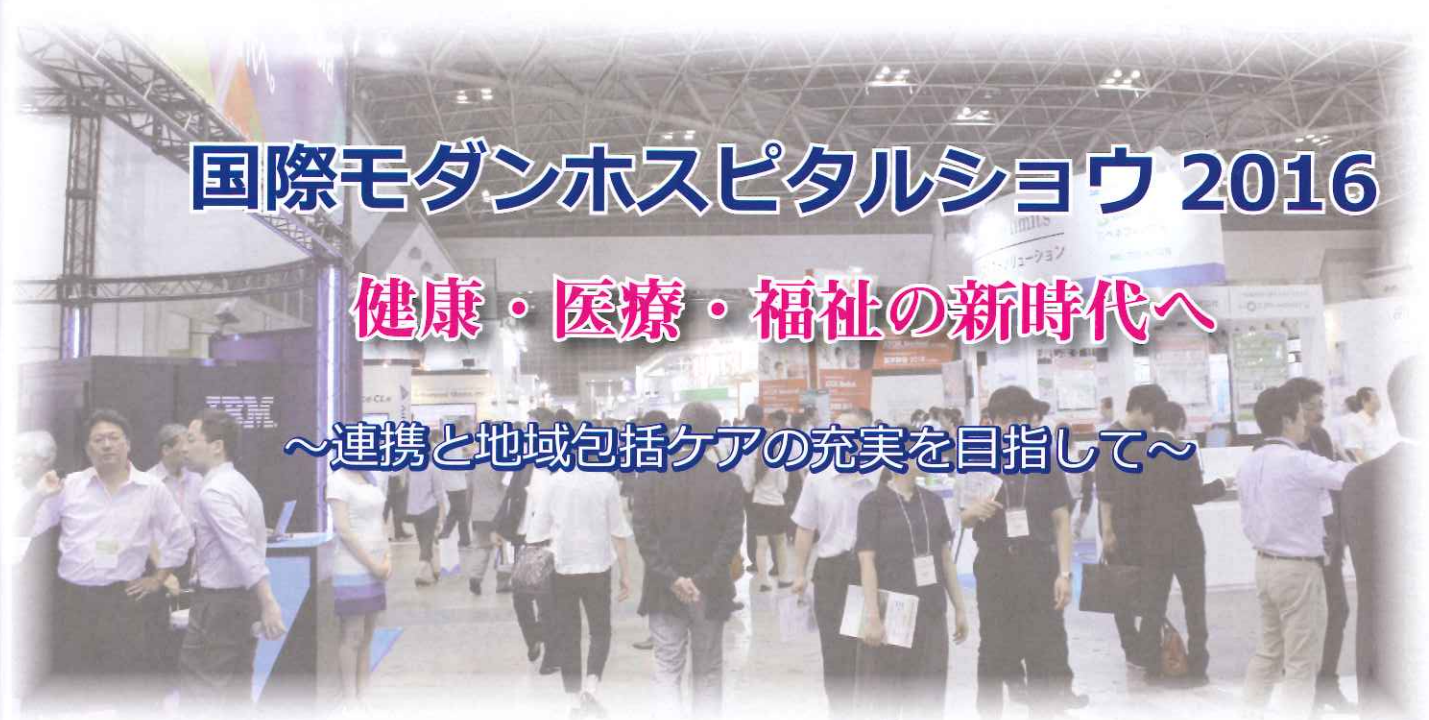


# 国際モダンホスピタルショー 2016

## 健康・医療・福祉の新時代へ

～連携と地域包括ケアの充実を目指して～



**職種連携や医療情報ネットワークに  
関連する製品・サービスが多数出品**

7月13～15日、東京ビックサイト（東京都江東区）にて、「国際モダンホスピタルショー2016」が開催された（主催：一般社団法人日本病院会／一般社団法人日本経営協会）。

「健康・医療・福祉の新時代へ」連携と地域包括ケアの充実を目指して」という大会テーマが昨年からのまま引き継がれたことが示すように、東展示棟4～6の展示会場では多職種連携や医療情報ネットワークに関連する製品・サービスが多数出品されていた。以前は医療・福祉関連機器や車輛の出品が多かった同展であるが、ここ2～3年で、ICT関連企業による情報関連システムやサービスの出展が増え、この傾向は今展示会においままますます強まった印象を受けた。以下、

企業展示をレポートする。  
アライドテレシ  
ス株式会社では、  
院内LANシステムを訴求。運用管理の  
手間とコストを実現するサービスとして「AMF (Allied Telesis)



写真①

Management Framework」を提案（写真①）。AMFではIoTデバイスを一元管理することで、設計・導入・保守コストの大幅削減につなげていくという。また、情報漏洩対策・障害時対策として「SES (Secure Enterprise SDN)」を提案。SESでは各種アプリケーションと連動しながらも、ネットワークの制御設定の自動化が実現でき、これらを組み合わせること未許可デバイスは接続が不可能となり、不正デバイスは自動遮断されるなど院内セキュリティ環境が大幅に改善されるという。

NTTアイティ株式会社では、クラウド型多職種連携サービスとして「ひかりワンチーム」を提案（写真②）。同サービスでは、患者ごとに必要なチェック項目を決めて日々に変化を共有する「モニタリング機能」を有しており、チームが同じ視点で観察・見守り・変化をできるよ



写真②

る。これにより、個々の患者の関連情報を常に確認でき、ヒヤリハットの予防にも寄与できるという。

ユニオンツール株式会社では、携帯心電計「ホームECG」を出品（写真⑤）。同機器においては、Bluetooth®通信技術によって無線送信される心電図の波形を、スマホやタブレット端末にインストールした専用アプリで受信することができ、受診した心電図の波形はクラウド上で解析され、測定者に結果が通知されるほか、かかりつけ医や家族にも転送することができるという。

株式会社SCCでは「SakuSaku ストレスチェックWebサービス」を訴求（写真⑥）。手持ちのPC・スマホ等で簡単にストレスチェックを受けられるWebサービスであり、昨年12月にスタートした「ストレスチェック制度」における調査項目である「職業性ストレス管理調査票（57項目）」にも準拠している。このシステムを活用することで、企業では従業員



写真③

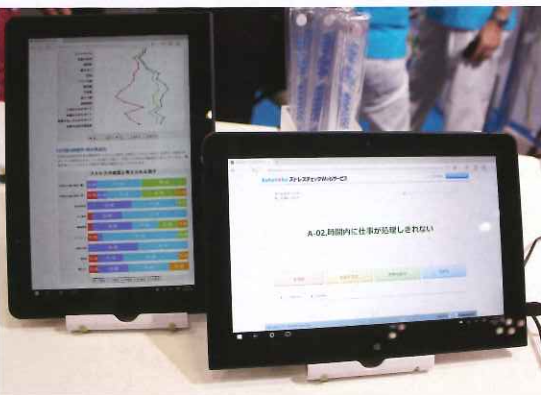


写真④



写真⑤

職場環境改善まで、容易に進めることができるという。たとえば実施事務従事者は分析レポートで受検者の状況が一目でわかり、労基署への報告書もワンクリックで作成・印刷が可能。また、PCを使わない医師にも配慮した仕組みとなっており、前回、前々回との比較が容易で心の不調者を見つけやすい画面設計になっているという。さらに、マークシート、英語表記にも対応しているという。



写真⑥

株式会社キャピタルメディカでは医療従事者向け情報端末「EUCALIA TOUCH」を出品（写真④）。ヘッドサイドの家具に埋め込んだモニターで患者の検査結果や本日の予定などを含むカルテ情報、禁忌・アレルギー情報を確認でき

う設計されている。また、チームで決めたケアの方針、対応策を常に表示・確認し、一体的で質の高いケアが効率的にできるよう配慮されている。重要な変化がひと目で確認できるよう画面デザインが色分けされており、迅速な対応が可能となっている。

株式会社SJメディカルでは、透析回診アプリ「STEP Tablet」を提案（写真③）。これは透析前確認、回診記録、処置指示などの透析患者のデータをiPadで確認・入力するアプリケーション。「フットケア管理」機能も搭載されており、平成28年度診療報酬改訂で新設された「下肢末梢動脈疾患指導管理加算（100点/月1回）」において使うことができるため、現在、引き合いが急激に増えているという。